

News Letter

2023年

5月

中国四国農政局
愛媛県拠点

八幡浜のかんきつ農業法人が新しく加工場を稼働

八幡浜市にある、かんきつ類を生産・販売する農業生産法人株式会社ミヤモトオレンジガーデンでは、新たな加工場を3月中旬から稼働しました。

同社は、これまで外注に頼っていた加工品の製造を自社製造に切り替えて製造コストを抑え、今後は他の生産者の加工も請け負うことにより、かんきつ産業の6次産業化に向けた中核になっていきたいと考えています。

新加工場では、加工に必要な釜や殺菌庫のほか、加工原料のかんきつを貯蔵する冷蔵・冷凍庫も備えています。



新しい加工場

これまで、主力のゼリーを中心に製造の9割を外注していましたが、新加工場の稼働により通年製造ができるようになり、全国の百貨店や高級スーパー、食料品専門店などで販売されます。

同社では将来の増産を見据え、製造能力も外注時に比べ数倍に高めており、加工品の売上比率も現状の3割から5割に引き上げる目標を立てています。

また、製造能力の引上げを生かして、今後は、食品メーカーでは受入れできない小規模な個人農



加工品の原材料となるかんきつ類
(写真提供：ミヤモトオレンジガーデン)

家単位（ロット）を受入れし、加工品を製造することを考えており、個人農家が6次産業化を始めるきっかけになればと考えています。

八幡浜市はかんきつ生産の一大産地ですが、みかん作りは得意でも加工品の製造・販売まで手掛ける農家は少数です。

同社の宮本泰邦社長は「かんきつ産業のイノベーターとして、地域で生産から加工まで手掛けられるようにしていきたい。」と話されています。

農家が付加価値の高いかんきつ加工品を製造・販売し収益力が上がれば、地域のかんきつ産業の基盤強化につながります。少子高齢化の影響で地方における人手不足が顕著な中、新たな担い手を迎え入れる可能性も秘めています。



新しい加工場で製造される製品
(写真提供：ミヤモトオレンジガーデン)

